

「名東区自然散策会」が昨年と時期も場所も同じくして明德公園で開催された。

今年も勉強のため参加することにした。参加者は、親子での参加や散策が好きそうな高齢のお連れ様など昨年より多い50名程が、何組かに分かれての散策である。



見覚えある案内役の方に「昨年バツタを追いかけていたお孫さんは欠席？」
「そこにいるよ！」「へえ！大きくなって！」「僕！今年もよろしく！」と12名程のグループで出発をした。

「木の実を見て下さい！今は緑色ですがイヌビワです。イチジクのように実の中に花が咲き、イヌビワコバチの雌だけが受粉の手伝いをし、雄ハチは羽がないので雄果内で一生を終えるという特殊な共生関係だそうです。」



「へえ！実もハチの世界も大変な一生があるんだなあ！」

次に所謂、どんぐりの木である、アラカシ・マテバシイ・コナラについて、又、



雄花と雌と別々の樹木があるアカメガシワも詳しく教えてもらった。

家に帰って写真を見てみたが、どれが何の木か何も分からなくなっており私には樹木の見分けは、まだ無理のようだ！

昨年勉強した、「ネムノキ・半夏生・ネジバナ・ブタナ・ジャノヒゲ」は昨年と同じ場所で同じ様に生きていたのをしっかりと確認できた。

今年、新しく知ったのは、水辺に黄色の花が釣り下がった様に咲くキツリフネという黄色の花とアジサイの本当の花は②であること。



そしてトンボを追いかけていた僕！の走り回る足の発達と、それに比べ

「よいコラショ！」と坂を登り降りる自分の足の衰えに気付いた事である。

